

繋がりにつながれて、真夜中

アニストを待ちながら

脚本・七里圭監督×主演・井之脇海

井之脇海 木竜麻生 大友一生 斉藤陽一郎 澁谷麻美

プロデューサー：藤野雅彦 監督・脚本：七里圭
2024年11月/カラー/61分/ヨーロッパビスタ/5.1ch/DCP ©合同会社インディペンデントフィルム/早稲田大学国際文学館

出られない図書館を舞台に描く

目に見えないものに紐付けられた若者たちの

物語

でも彼らは出て行かないのか?

ガラスの向こうは明けない夜。自動ドアはいつでも開くが、どういうわけか外には出られない。どこにも行けない理不尽な状況で、居合わせた男女5人は、なぜか芝居の稽古に興じ始める。まるで、幽閉されたことに甘んずるかのように。そこにはいない誰か、不在の視線を意識しなから……。

このおかしな物語は、私たちが経験したコロナ禍や、今や当たり前になったオンライン、SNSでの非対面コミュニケーションの奇妙さを暗示している。

20世紀の不在の相手につながる。待たされて、くたびれている。サミュエル・ベケットの有名戯曲を思わせる題名に、その意図が込められている。

映画の舞台となるのは、**世界的な建築家の隈研吾が手掛けた、村上春樹ライブラリー**。村上文学をイメージした**迷宮的空間で全編撮影**されたことも、見どころの一つだ。本作は、この村上春樹ライブラリー(早稲田大学国際文学館)の開館記念映画として製作された短編をもとに、**約1時間の劇場公開**(ディレクターズカット)版として完成された作品である。

主演は、若手実力派の**井之脇海**。『東京ソナタ』(08)の天才ピアノ少年「ミュージコフリア」演奏を披露している。共演には、『福田村事件』(23)『熱のあとに』(24)など話題作の出演が続く**木竜麻生**とともに、『カソクテッサン』(20)『劇場版美しい彼・eternal』(23)の**大友一生**を抜擢。そして、『王国(あるいはその家について)』(23)等で鮮烈な印象を残す**澁谷麻美**、故青山真治監督作品で常連の**斉藤陽一郎**がわきを固める。

監督は、**今年デビュー20周年を迎える七里圭**。劇場初作品の『のんきな姉さん』(04)で注目され、カルト的な人気を誇る『眠り姫』(07)『サラウンドリマスター版16』や『DUBHOUSE』(12)『音から作る映画』プロジェクト(14・18)、『背吉増剛造×空間現代』(22)など、**常に先鋭的な作品を生み出してきた異才**である。唯一無二のフィルムグラフィイーを重ねる七里にとって、本作は久々の劇場映画となる。

<https://keishichiri.com/pianist>



図書館という空間が演劇によって異化されるのを、この映画を見る者は目の当たりする。そこで演劇のリハーサルが繰り返されること。しかも真夜中に。

岡田利規

チェルフィッチュ主宰 / 演劇作家 / 小説家

STORY 目覚めるとそこは真夜中の図書館だった。瞬介(井之脇海)が倒れていた階段の両側には、吹き抜ける天井まで高く伸びた本棚がそびえる。扉という扉を開けて外に出てみるが、なぜか館内に戻ってしまい、途方に暮れる瞬介。やがて瞬介は、旧友の行人(大友一生)と貴織(木竜麻生)に再会。三人は大学時代の演劇仲間だった。他にも、中年男の目目(斉藤陽一郎)や謎の女絵美(澁谷麻美)もいる。行人は、この状況を逆手にとって、かつて上演できなかった芝居の稽古を始める。それは、行人が作・演するはずだった「ピアニストを待ちながら」。しかし、瞬介には気になることがあった。確か、行人は死んだはずでは……?

プロデューサー:熊野雅忠 | 企画:土田 環 | ラインプロデューサー:佛木雅彦 | 撮影:渡邊寿岳 | 照明:高橋善也 | 録音:松野 泉、黄 永昌 | 助監督:島井雄人 | ヘアメイク:永江三千子 | スタylist:小笠原吉恵 | スチール:本多晃子 | 劇中戯曲:鈴木一平 | 原案協力:山本浩貴 | 振付指導:神村 恵 | 音楽:宇波 拓 | 編集:宮島真治、山田佑介 | 宣伝:平井万里子 | 宣伝デザイン:鈴木規子 | 予告編制作:日景明夫 | WEBデザイン:植田智道 | 協賛:行政書士法人東京国際経営法律事務所 | 配給協力:チャーム・ポイント | 製作:合同会社インディペンデントフィルム / 早稲田大学国際文学館

横浜シネマリン

上映開始 24.11.16 ~

045-341-3180

